



ロータリーの未来は  
あなたの手の中に

第2820地区

# HITACHI SOUTH ROTARY CLUB

Weekly Bulletin

Weekly Bulletin



週報 No.37

例会場 要害クラブ TEL(0294)36-2020

例会日 毎週火曜日 12:00~13:00

■会長 木本 貴一 ■副会長 大森 孝之

■幹事 高島 章行 会報委員 山縣敏史 大森孝之 大神田

本日の例会平成 22 年 5 月 11 日 (火) プログラム：卓話・社会奉仕委員会

次回例会 平成 22 年 5 月 18 日(火)プログラム： クラブフォーラム・会長エレクト

## 例会報告

4月 27 日(火)12:00 開会  
高島 章行 幹事



### 会長の時間

木本 貴一 会長

会長の時間でございます。今日の日本経済新聞を読みますと決算上場会社3社に1社が上方修正というような景気のよいお話もありますがよく見ますと新興国向けの事業や商品にかんして内容がよくなっているようでありましてこの地域までは影響が及んでいないのではないかと想像している訳でございます。上場大企業が収益を伸ばしている中で自動車の国内販売は落ちている。内需がしぼんでいるということではないでしょうか。今度のiPadが上陸すると書籍がいらぬ、流通がいらぬといったような、現象が現れて気付くことはありますが実はその現象が起こる前には着々と変化する物があるわけですので我々はその変化に対応すべくアンテナを張り巡らせていないと自分の事業もしぼんでいってしまうのではないかと思います。以上会長の時間でした。



### 幹事報告

高島 章行 幹事

幹事報告させていただきます。

- ・ 国際ロータリーから6月10日世界大会の案内が届いております。後程回覧いたします。
- ・ 小山雑誌・広報委員長も出品名なさっている「日製謳美会」がシビックセンターで5月4日まで絵画の展示をしておりますので皆様是非見に行ってください。



### 委員会報告

大森 孝之次年度会長

先日日曜日に筑西におきまして地区協議会が開催されました。ほぼ一日がかりでご苦労様でした。地次年度のテーマが 地域を育む ・「ために」から「ともに」ということでそれぞれの分野でみっちり勉強してきました。代理で出席した方は内容を委員長に伝

えてください。

高島 章行 幹事

新世代委員会よりFAXさせていただきました四国喝破道場訪問の件ですが参加できる方はお早めにご連絡をいただきたい。



### 出席報告

小澤 興 委員長

会員数	出席	欠席	出席率	MakeUp	修正	免除
36名	22名	14名	61.1%	名	100%	1名



### ニコニコBOX

白石 満義 委員長

- ◎ 小山委員長よろしく!。 木本 貴一 岩崎 敬次  
残すところあと二ヶ月!頑張ります。 高島 章行
- ◎ 地区協議会への御参加ありがとうございました。 大森 孝之
- ◎ 地区協議会欠席してすみませんでした。 鹿志村 高道
- ◎ 今日は寒いですね体調崩さぬように。 塙 憲男 池澤 健
- ◎ 先日は地区協議会に参加した方々大変お疲れ様でした。勉強になりました。 朝日 正道
- ◎ 小山さん楽しみにしてきました。 須田 晃 石川 國博
- ◎ 楽しくやらせてもらいます。 小山 高一
- ◎ 卓話ご苦労様です。 長山 行夫 小澤 興 山本 忠安  
櫻村 文雄 宮本 尚彦
- ◎ 地区協議会お疲れ様でした。 山縣 敏史 弓野 博司 川村 昌弘  
千葉 省三 鈴木 幸一 星 勝治



本日も多くの方からニコニコBOXへの協力誠にありがとうございました。



本日計 28,000円

累計額 1,164,000円



## 本日のプログラム

卓話・小山高一 雑誌・広報委員長



①、4月はロータリーの雑誌月間で「ロータリーの友」など、ロータリー地域雑誌の講読と活用促進を推進する月間で、雑誌に対す

る会員の認識を深め、ロータリー情報の普及、浸透を図ることを目的としていることもあって、その趣旨に沿う形で、雑誌広報委員長として何か話せということだろうと理解し、毎月の月初め「ロータリーの友」が配られた時に今月の見所。読みところをお話させていただいているのですが、折角ですのでこれまでの毎月の話をまとめた形でお話をし、卓話とさせていただきます。

②、ロータリーの「雑誌購読」が『例会出席』『会費納入』と並ぶ、ロータリアンとしての三大義務のひとつであることはすでにご承知のとおりであります。その意図するところが何処にあるか考えてみるに、雑誌の編集方針がロータリーの綱領を推進、理解を深めるよう編集方針を定めていて、国内外における各種ロータリー情報を掲載することにより、国内外の全てのロータリアンがロータリーについての情報や思いを共有できるように編集し、ロータリー精神の涵養に役立つよう、またロータリアン以外の人たちにもロータリーについて広く知ってもらえるよう編集を心がけロータリー活動の発展に寄与することを発行の目的としているのです。地域雑誌『ロータリーの友』は正にロータリアン並びにロータリアン家族の教本、テキストであり、公開討論の場、交流、コミュニケーションを図る広場という空間でもあるので、購読を義務づけ、ロータリアンとしての意識を高め、世界平和に向かって奉仕の理想に燃える永久なる国際ロータリーへと発展していく事を目的としているのです。

③、だからこそ雑誌・広報委員長としては会員の皆さんに『ロータリーの友』を読んでもらいたく、毎月、見所、読み所を紹介している次第です。最近では皆さん。雑誌が配られると、すぐ開いて見てらっしゃるようなので、私から読み所をあえて紹介するまでもな

いのではと最近は感じております。

内藤ガバナーもガバナーマンスリーレターの4月号で言うておられますが、ガバナーになってからは横書きの「RI 会長メッセージ」と縦書きの『SPEECH』は必読とし、「ロータリー・アットワーク」他眼についた記事にも眼を通すことにしたようです。私も同じです、必読箇所を決めた方が良いでしょう。そして読まれた後、特に関心を持たれた記事については、目印をつけ、ご家族や、従業員、顧客、等ロータリアン以外の人たちにも、広く情報を提供し、知っていただくよう心がけていたいただきたいと思ひます。

④、木本年度になってからの『ロータリーの友』で私自身に、強く印象に残り、みなさんにも、『今月号の見所、読みどころ』としてご紹介した中から、2・3拾ってみたいと思ひます。そういえばそんな記事があったかと、再度『ロータリーの友』を開いていただければ幸いです。まさか再生資源として出されたと言う人は居ないでしょうが、少なくとも1年ないし2年間は間違っても捨てないで保管していただくようお願いいたします。

⑤、先ず7月号『ヨコ書き』にはジョン・ケニーRI 新会長のメッセージとして、今年度のRI テーマ『ロータリーの未来はあなたの手の中に』を採り上げた経緯が述べられていました。なかでも印象に残ったのは『私たち一人ひとりはいわば過去を未来へと繋ぐ鎖の輪のような存在で、この鎖が解けることなく永続していくために個々の輪を強くしなければならぬ、ロータリーの未来への鎖を堅固なものに鍛え上げることが私の責務です』と述べ、具体的な実行テーマとして『ポリオ撲滅』『ロータリー独特の職業奉仕への取り組み』等をかかげていました。

『タテ書き』の SPEECH 欄には『環境問題に挑戦する日本の技術と文化』と題して東大の月尾教授による2760地区、地区大会での講演記事が出ておりました。地球がここ数百年の間に人口とエネルギーが爆発的に増え、そのことによる地球の資源、生物、環境の変貌に対して、今後我々が考え、採るべき行動の重要性を訴えた記事でした。このほかに「水戸ロータリークラブ」の特別訪問記事(好文亭での特別例会等)もありました。

⑦、8月号『ヨコ書』には『ロータリーの基礎知識』がわかりやすくまとめられ解説され

ていましたので、特に新会員の方に是非呼んでおくようご紹介しましたが、確かこの基礎知識の中で、ロータリアンの三大義務、「例会出席」「会費納入」『ロータリーの雑誌購読』を確認したように記憶しております。

⑧、10月号は職業奉仕月間であるため、『ヨコ書』に『真実かどうか』から始まる「4つのテスト」を創り、世界のロータリアンに対し普及浸透させたハーバード・テラーさんの「4つのテスト」が生まれるまでの経緯の記事が強く印象に残っています。

『自分の考えを述べる前や行動を起こす前にこのテストで自分の考え、言葉、行動を確認する人はおおむね正しいことをしている人である』。まさにそのとおりで、皆さんもそれを思いながら例会時に唱和しておられると思います。

⑨、11月号はロータリー財団月間であるため「タテ書」に『ささやかな善意』というタイトルで世界を変えるのに私たちが考えるほど費用が掛からないから、是非財団に寄付をと言う書き出しでポリオ撲滅を始め、水の浄化など財団が今取り組んでいるプロジェクト費用を単価で示しながら、呼びかけている記事でした。世界の3人に1人が清潔な水が飲めず、年間350万人が水が原因で命を落としている現状が紹介され、バイオ・サンド・フィルターを1台32ドルで設置すれば、かなりの人の命が救われると言われていました。

⑩、ロータリー理解推進月間の1月号『ヨコ書』にはロータリー創始者のポールハリスが「THE NATIONAL ROTARIAN」創刊号（1911年1月発行）に『合理的ロータリアニズム』と題して投稿された記事の一部が訳され掲載された。その中で『ロータリーのマークは質の保証となるものでなければならない』すなわち信用、商品、サービス、に関してA1クラスの格付けに匹敵するものでなくてはならないとっておられることが強く印象として残っております。ロータリアンが身につけるバッジはISO9000、14000じゃないが、ロータリアン個人の質の保証（クオリティーアシュアランス）を示しているもので、自他共に認める質の高い存在であることを示唆しているものである。

⑪、世界理解月間の2月号の『ヨコ書』では「平和と紛争解決に向けて」と題してロータリー平和センターの平和フェローの人たちの

活躍と主張が掲載され、ロータリーの幅広い活動による世界平和への貢献度を知り感動した。

⑫、識字率向上月間の3月号の「ヨコ書」ではネパールほか世界で識字率向上のために活動しているロータリアンの情報と共に、RI会長エレクトのレイ・クリンギースミスさんの7月RI会長就任にあたっての気持ちをQ&Aの形でまとめた記事が「RAY OF HOPE」（希望の光）と言う題で掲載されたので、読んでおくようにご紹介したかと思いますが、タイトルに強く惹かれたことを覚えている。

『タテ書』で『転ばぬ先の杖と知恵』（転倒、骨折、寝たきりにならないために）と題して東大教育学部長の武藤先生が2600地区のIMで講演された内容の記事が、私への忠告のような気がして、強く印象に残っている。LIFE IS MOTION（ライフ イズ モーション）（生きていることは動いていること、常に体を動かし、心を動かすことが大切であると言う意味）、骨が豊かを書いて『體』（からだ）と読む、なるほどそういうことだ。

そのほか転ばぬ先の7か条（以下）も言われていた、

- ・ 歳々年々人間同じからず
- ・ 転倒は結果（クスリは逆に読むとリスク）
- ・ 片足立ちを意識する
- ・ 転ばぬ先の杖の使い方
- ・ 無理なく楽しく30年
- ・ 年寄りに冷や水
- ・ 転んでも起きればいいやの気持ちでとにかく歩く

「タテ書」SPEECH欄で『江戸時代を支えた日本人の心』と題して徳川18代当主の徳川恒孝（とくがわつねなり）さんのお話、徳川家の当主の話として興味を持ちました。

会長の点鐘にてセレモニー終了

